

まちの話 だい

4月10日 | 春の山を照らす星々

千葉山ハイキングコースにある「どうだん原」で、ドウダンツツジの花が見頃を迎えました。

「スカイペンションどうだん」から歩いて約15分ほどの同地には、約8,000本のドウダンツツジが群生し、春にはスズランのような釣り鐘状の白い花が一面に広がります。漢字では「満点星」と書くその名のとおおり、夜空の星のように咲き誇り、ハイカーの目を楽しませていました。



4月24日 | 春を誘う新茶の香り

新茶シーズンの到来をPRするため、市役所ロビーで市茶業振興協会島田支部による呈茶サービスが行われました。日本茶インストラクターらが牧之原台地で17日に収穫・製茶されたばかりの「やぶきた」を丁寧に淹れ、茶娘から来庁者に振る舞われました。

27日までの期間中、多くの人が香り豊かで滋味あふれる新茶を、一足早く堪能していました。

4月23日 | 元気にすくすく育てね

伊久身幼稚園の園児15人が、伊久美川で稚アユの放流を行いました。

これは、アユ釣りの解禁を前に大井川非出資漁業組合が行っている事業の一環。園児たちは、春先のまだ冷たい川の水に驚きながらも、体長6～8cmほどの稚アユを、バケツから優しく放流。「大きなあれ」と声を掛けながら、元気よく川を上っていく魚影を見送りました。





4月6日 | 志を立てる看護への道

島田市立看護専門学校の入式が行われ、44人の看護師の卵が入学しました。

新入生代表の^{おおはた みゆ}大畑実祐さんは、「同じ志を持った仲間と、共に喜び、時には苦しみも分かち合いながら高め合い、患者様に信頼される看護師を目指して日々精進します」と力強く宣誓。新入生たちは期待と不安を胸に、看護の道への一歩を踏み出しました。

4月22日 | 誰もが居心地いいまち

島田市障がい者福祉連絡会は、おび通りをメイン会場に「バリアフリーてけてけ隊・春の島田市商店街探検ツアー」を開催しました。

イベントの目的は、障害の有無に関わらず、誰もが地域社会で生活を楽しめるまちの実現。歌や踊りのステージのほか、絵画教室やスタンプラリーも行われ、市内外から訪れた多くの人と地域住民とが、あらゆる立場を超えて交流を深めました。



4月18日 | 新茶の出来に期待込め

市内各地の新茶が順調に育ち、島田地域ではこの日、新茶の初取引式が行われました。

前年よりも7日早い式には、早朝から生産者や茶商など多くの茶業関係者が出席し、鐘の合図と共に取引をスタート。売り手と買い手がそろばんを弾きながら価格を交渉し、商談が成立する度に「シャン・シャン・シャン」と活気のある手合わせの音が、会場に鳴り響きました。